

第 48 回衆議院議員選挙結果を踏まえての J R 連合コメント

2017年10月24日
日本鉄道労働組合連合会
(J R 連合)

10月22日に投開票が行われた第48回衆議院議員選挙において、ご支援ご尽力いただいた組合員や家族の皆さまに御礼申し上げます。また、推薦候補の必勝に向けて献身的に奮闘されたすべての関係者に対しても心から感謝を申し上げます。

今選挙の結果、自民党・公明党は313議席となり、改憲発議に必要な定数465の3分の2を確保し、また、自民党は284議席を獲得し、国会運営を主導できる絶対安定数を単独で確保した。一方、野党においては、民進党が事実上解党となり、希望の党が50議席に留まる中、立憲民主党が55議席と議席を拡大した。また、無所属での立候補者も多数おり、無所属の議席を増やした結果となった。

国会・国民軽視を続けてきた安倍一強政治の継続に是非を問う選挙ではあったが、選挙直前の野党再編などの混乱の中で、政権交代可能な政治体制づくりを十分構築できなかったことや、政策論議が置き去りにされたことは極めて遺憾である。

衆議院選挙では初めての18歳からの選挙権年齢引き下げの適用であったものの、野党における混沌とした状況もあり、さらに、悪天候の影響もあり投票率は推定53.68%と戦後2番目の低水準となった。政治への関心が高まらず投票行動に繋がっていない状況については、今一度、国民一人ひとりが、厳粛に受け止めるべきである。

J R 連合は、各単組からの推薦にもとづき、連合の方針、および J R 連合の掲げる運動理念、諸政策に賛同する候補者122名を推薦し、候補者の当選に向けた取り組みを展開してきた。とりわけ、J R 連合国会議員懇談会の副会長の伴野豊氏(愛知8区)、同事務局長の小川淳也氏(香川1区)、同幹事の岸本周平氏(和歌山1区)、泉健太氏(京都3区)の4名を最重点候補に、また「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する候補者を重点候補に指定し、各単組の最大限の支援により選挙戦を闘い抜いた。その結果、議員懇談会および議員フォーラム所属の候補者22名の当選を果たすことができた。J R 連合推薦候補者としては122名中、63名が当選した。しかし、最重点候補の一人である伴野豊氏をはじめ、複数の重点候補者については、誠に残念ながら当選を果たすことができなかった。

選挙結果を真摯に受け止めるとともに、政治活動の意義の浸透やさらなる政治への参画意識の醸成などについて、引き続き組織内において議論を深めていくこととする。

労働法制、社会保障、消費増税、憲法改正など国民・働く者の生活に直結するような課題が山積している中、国会で我々の声を代弁する政治勢力との連携は必要不可欠である。連合が目指す政権交代可能な二大政党制の構築に向けて、また、あるべき民主主義の実現には健全な野党勢力が求められている。

J R 連合は、国政の場において、国民に対して真に筋を通す政治と、将来を見据えた真っ当な政策論議が行われるように、今後の政界の動向を注視しつつ、議員懇談会および議員フォーラムの体制を見直すとともに体制強化を図っていく。そして、引き続き J R 連合が抱える組織課題、政策課題の解決に向けて取り組んでいくこととする。

以上